

令和5年度 学力スタンダード指導計画・報告書

教科：（国語）科目：（現代文B） 対象：（第3学年 31R～36R）

科目担当者：（31R:光野^印）（32R:梅原^印）（33R:光野^印）（34R:梅原^印）（35R:光野^印）（36R:梅原^印）

教科・科目の 指導目標	・論理的な文章を読み、思考力・判断力を高めるとともに、論理の道筋をつかみ、筆者の主張や意見に対して、自分なりの考えをもつ。 ・文学作品を読む楽しさを理解し、感性や感情を豊かにする。 ・幅広い語彙力を身につける。
----------------	---

	前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	①記述問題に対する苦手意識が強く、回答率・正答率が低い。 ②現代文は小説における問題の正解率が高い。一方、国語知識に関する正答率がやや低い。 ③基本的な文章読解はできている。漢字や語句といった語彙の知識を身につけるために、時間をかけた学習が必要である。	①高等学校国語の集大成として、やや長めの文章に触れる機会を増やす。 ②語彙力を高めるために、小テストや意味調べの予習などを継続的に実施する。 ③引き続き、現代的課題や新しい価値観を含んだ教材を意識して選択して授業を実施する。 ④引き続き、定期考査を始め、あらゆる試験において、必ず振り返りを実施する。	①評論・小説のどちらにおいても担当者と連携し、授業で取り扱う教材を厳選する。 ②「現代語練習帳ことのは」を活用し、年間24回の小テストを計画し、実施する。 ③特に評論の読解においては、これからの新しい社会を生きる者として、物事に拘泥しないものの見方・考え方を身につけられるような教材を厳選する。 ④あらゆる試験において振り返りを実施する。受験生になるので、模擬試験等の振り返りもあわせて実施する。

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			